

改訂の序

2004年3月に初版が発行されてから概ね6年が経過し、この度改訂版を上梓するに至った。その間、幸いにして我々編者や著者の予想を遙かに越える多くの読者を得た。また、初版は2005年1月には翻訳されて韓国でも出版されている。

このように予想以上の好評を得ることが出来たのは、見開きで左右に正常と病変の画像を並べるという単純な構成であったこと、いわゆる「手のひら」サイズに近いハンディーなものであったことが大きかったのではないかと考えている。また本編の前後に「基本的画像のポイント」と「重要語句解説」を加えるという編者なりの工夫を行い、要点を押さえながらコンパクトに述べることを心がけた点も評価して頂けたのではないかと思っている。

今回の改訂は全体の構成や執筆陣はそのままにして、大きく以下の3点で行った。まず全般的な症例や解説の見直し・追加である。これらは初版でもかなりのレベルのものであったと認識しているが、その後に、より典型的あるいは教育的な症例を得たために変更し、不十分であったと感じられる記述や新たな知見などを加筆した。2番目は、第4章「拡散強調画像」の追加である。拡散強調画像は多くの施設の日常診療で、ほとんどルーチン

にといってよい状況で撮像されており、その臨床的意義も大きいことからこれを加えることとした。3番目は、初版で若干難があったかと思われた症例画像の画質を全面的に改善したことである。

幸い改訂にはいずれの執筆者にも意欲的に取り組んで頂き、手軽さを保ったうえで、質的にかなりの向上をみたと自負している。初版に引き続き、画像診断に携わる放射線科ならびに関連の臨床科の医師、さらにはコメディカルの皆様に日々の診療で役立てて頂ければと願う次第である。

2010年1月

編者 土屋 一洋
大久保 敏之